



フジタガンカニュース

Vol.67 2016.4.25

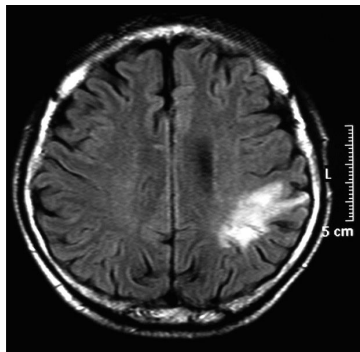


「眩暈(めまい)」は…「げんうん」とも読めるんです②

今回のフジタガンカニュースは、前月号に引き続き『眩暈(めまい)』についての解説です。それでは「日本めまい平衡医学会 <http://www.memai.jp/>」のホームページの「めまいの Q&A コーナー」を参照してみましょう。@@

① めまいとは何か？ (下図も参照ください)

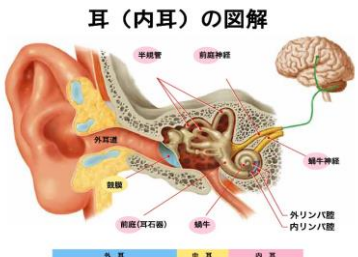
めまいは、広辞苑によりますと「目眩・眩暈:めがまわること、目がくらむこと。げんうん」と定義されています。日本の古書では、「眼の前のものが揺れ動いて、あたかも鴨居に懸けた物がゆらゆらとして定まらないと言った感じ」を眩としています。めまいは頭痛と同様にありふれたもので、日常生活の中でも体験する事が多い症状です。健康な方でも、「地震かな」と周囲のヒトに尋ねた経験もあると思います。めまいを定義しますと、安静にしている時あるいは運動中に、自分自身の体と周囲の空間との相互関係・位置関係が乱れていると感じ、不快感を伴ったときに生じる症状とされています。一般的には自分自身か、または周囲が動いていないのに動いているという違和感のあるあやまった運動感覚を感じているときに、めまいがあると訴えることが多いようです。具体的にはぐるぐるまわる感じ、ふわふわまたはゆらゆらする感じなどで訴えられています。



視覚入力、内耳入力、深部知覚入力からの情報を小脳、脳幹で分析し、体のバランスをとっている。このシステムの異常によりめまいが起こる。

深部知覚とは、自分の体のおかれた状態を知るためのもので、筋肉・腱・関節周囲の感覚、足の裏に加わった圧力などを感じている。

② めまいを感じるしくみは？ (下図も参照ください)

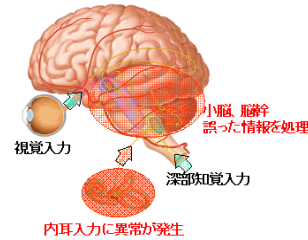


私たちの脳は、内耳の三半規管や耳石器からの信号、目からの視覚情報、手足、首などの筋肉や関節からの知覚情報などを受けて自分の運動や姿勢を認識します。通常はこれらの感覚の間に矛盾はなく、自分の運動や外界の変化をそれなりに知覚することはあっても、これを「めまい」と感じることはありません。しかし、例えば病気で内耳の調子が悪くなると、実際の動きや姿勢とは異なる情報が内耳から発信されます。するとその信号によって、実際には頭や体は動いていないのに、そ

れらが動いたときと同じような筋肉の反射が起こります。また、内耳からの異常な情報が直接脳にも伝えられます。これらの誤った情報は、現実の運動で生じるものとは異なり、ほかの視覚や筋肉や関節などの体の感覚とうまく一致しません。私たちは、このような複数の感覚情報のアンバランスを「めまい」と自覚するのは、したがって、内耳の病気だけでなく、視覚、首や腰の異常、またそれらの情報入力を統合する脳の病気でも「めまい」を感じます。「めまい」で多くの種類の検査が行われるのはこのように広い範囲の異常を総合的にチェックする必要があるからです。

③ どうして耳の病気でめまいが起きるのか？ (下図も参照ください)

どうして耳の病気でめまいが起きるのか？



耳は外耳、中耳、内耳に分けられます。このうち、内耳には音を感じる蝸牛と重力に対する頭の位置や頭の運動(加速度)を感じる耳石器と三半規管があります。人間は前庭・三半規管の働きで頭の位置・動きを感じ、目の動きや首・手足の運動を調節することで、姿勢を安定に保ったりスムーズに運動を行うことができます。

耳(内耳)の病気で耳石器・三半規管の働きが障害されると、自分の頭の運動が正確に感ずることができなくなり、動いていない自分の頭(体)が回ったように、あるいは揺れているように感ずるようになります。これが「めまい」です。つまり、めまいは自分の位置や運動を誤って感ずる症状なのです。

内耳で音を感じる蝸牛は、耳石器・三半規管とつながっています。耳の病気でめまいが起きるとき、めまいとともに音の聞こえが悪くなる(難聴)場合と、めまいが単独に起こる場合があります。前者の代表がメニエール病、後者の代表が良性発作性頭位めまい症です。

@@
@@

今月のお知らせ

少し先の予定となりますが、
7月1日(金)午後と
7月2日(土)は、院長が学会に出席、
第五回日本涙道・涙液学会でのシンポジ
スト講演があるため、藤田眼科の診療は
臨時休診となります。ご迷惑をお掛け
しますが、宜しく御願ひ致します。



<http://www.fujita-ganka.com>

FUJITA-EYE-CLINIC
藤田眼科
エフ・ビジョン(コンタクトレンズ販売)
F-Vision

☎ **042**
(645)
0575
☎ **042**
(642)
2911